

環境共生と低炭素のまち・京都

豊かな森林資源，伝統文化，進取の気風と創造の力など，京都のまちの特性をさらに高め，京都のまちがもつ「市民力」や「地域力」を総結集し，自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現を目指しています。

ここでは，京都市の環境政策の最新動向や皆様の具体的な行動に関わりの深い取組を御紹介します。

(イラスト)

目次

○自然環境とくらしを気遣う環境の保全・・・・・・・・・・・・・・・・	1
○低炭素型のくらしや持続可能なエネルギー社会の実現・・・・・・・・	2
○ごみを出さない循環型社会の構築・・・・・・・・・・・・・・・・	4
○私たちにできること・・・・・・・・・・・・・・・・	6
○各区の取組・・・・・・・・・・・・・・・・	7

自然環境とくらしを気遣う環境の保全

京都の優れた自然環境を後世に伝えていくため、生物多様性の保全に向けた取組を進め、また、市民や事業者と一体となって、市民の生活環境の保全向上に取り組めます。

生物多様性の保全

生物多様性とは

「生きものたちの豊かな個性とつながりのこと」です。人間を含むすべての生きものは、他の多くの生きものと大気・水・土などで構成される環の中で相互に関わりあって生きています。

・京都市の伝統・文化・暮らしと生物多様性の関わり

京都市には、世界文化遺産をはじめ、数多くの文化財、社寺などの歴史・文化遺産があります。これらの社寺などに見られる長い年月が育んだ林や庭園などの緑地は、生物多様性の保全上非常に重要であり、文化や工芸も京都市の緑や地下水といった生物多様性の恵みを利用し発展してきました。



二条城二の丸庭園



天龍寺庭園

・生物多様性プラン（仮称）の策定

在来生物の絶滅危惧やマツ枯れ・ナラ枯れ、祇園祭の粽に用いるチマキザサの減少など、自然の保全や伝統文化の継承を揺るがすような問題が発生しており、京都の地域特性を考慮した生物多様性の保全に向けた取組を進める必要があるため、現在、京都市生物多様性プラン（仮称）の策定を行っているところです。



チマキザサ

みんなで探そう 京都のいきもの

子どもたちが生きものに興味を持つきっかけづくりとして、「京のいきもの発見ガイド」発行し、公園や道路沿いの樹木、里山など身近な自然の中で野鳥や昆虫などの生きものの情報を報告いただく取組を実施しています。平成25年度は約〇〇〇種の生きものの発見報告が寄せられました。



報告のあった生きものの紹介

生活環境の保全

微小粒子状物質（PM2.5）等の大気の測定や主要河川の水質調査等の常時監視を行っています。

PM2.5について、1日平均の濃度が国の暫定指針値を超えると予想される場合は、学校、福祉施設、医療機関等2,000箇所にFAX等で通知するとともに、市ホームページ等において注意情報を発表します。



一般環境大気測定局（市役所局）

低炭素型のくらしや持続可能なエネルギー社会の実現

「京都市地球温暖化対策条例」に掲げる温室効果ガス総排出量の削減目標の達成に向けて、低炭素型のまちづくり、省エネ・省資源、再生可能エネルギーの飛躍的拡大などの取組を推進します。

地球温暖化対策に特化した全国初の条例

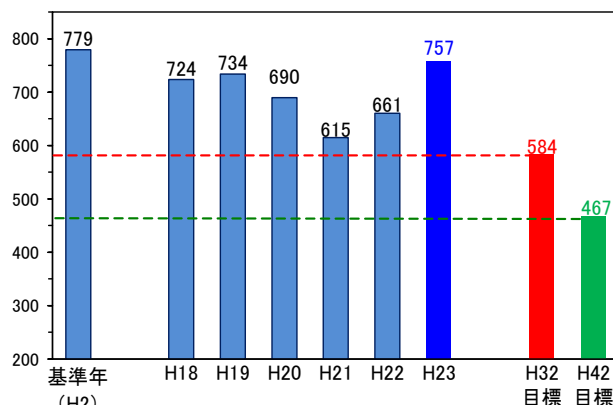
平成 22 年 10 月に「京都市地球温暖化対策条例（平成 16 年 12 月）」を全部改正し、新たな高い削減目標を設定しました。

平成 42 年度までに 40%削減（平成 2 年度比）

平成 32 年度までに 25%削減（平成 2 年度比）

また、平成 23 年 4 月には、京都市地球温暖化対策計画＜2011～2020＞を策定し、新たな目標の達成に向けた取組を推進しています。

（万トン-CO₂）温室効果ガス総排出量の推移



「原発に依存しない持続可能なエネルギー社会」を目指した取組

「京都市エネルギー政策推進のための戦略」の策定（平成 25 年 12 月）

市民力などの京都の強みや地域力などの地域資源を生かし、市民、事業者、行政等、地域のあらゆる主体が一体となって共汗で取り組む戦略を策定しました。

＜4 つの視点＞

市民力・地域力

先進性

産学公連携

自然の恵み

＜施策推進の方向性＞

省エネルギー

再生可能エネルギー

エネルギーを賢く使う
スマートシティ

革新的な技術・仕組みを生み出す
グリーンイノベーション

＜目標＞

■省エネルギー

年間エネルギー消費量を 15%以上削減

■再生可能エネルギー

再生可能エネルギー導入量を 3 倍以上

〔 目標年度：平成 32 年度 〕

〔 基準年度：平成 22 年度 〕

市民力・地域力

市民協働発電制度の創設

広く市民誰もが再生可能エネルギーの普及に関わることができる制度を創設し、平成 25 年 3 月から市有施設 3 箇所でスタートしました。

25 年度は、設置施設を大幅に拡大するとともに、「太陽光発電屋根貸し制度」を実施しています。



里山保全と木材の利用



「エコ学区」事業

家庭からの二酸化炭素排出量の一層の削減を図るため、学区ごとに地域ぐるみで環境にやさしいライフスタイルへの転換を推進しています。平成 27 年度までに全学区がエコ学区となるよう支援します。

25 年 11 月末現在で、140 学区がエコ学区となりました。

先進性

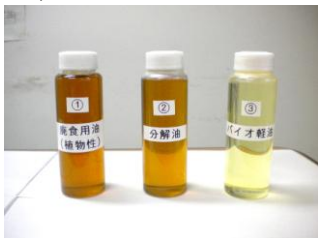
バイオディーゼル燃料化事業

家庭からの使用済てんぷら油を回収（1,690 拠点、平成 25 年 11 月末現在）して、バイオディーゼル燃料に精製し、ごみ収集車（136 台）、市バス（93 台）の燃料として、年間約 130 万リットルを利用しています。平成 18 年度に設立された「全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会」の会長に京都市長が就任し、全国的な普及拡大に向けて取り組んでいます。



バイオ軽油実用化プロジェクト（世界初）

動植物性の廃油から軽油と同等の高品質な「バイオ軽油」を製造する研究開発を、産学公の連携により実施し、平成 30 年度の実用化を目指しています。



都市油田発掘プロジェクト（全国初）

日立造船㈱、熊本大学と共同で、生ごみと紙ごみから高純度のエタノールを製造する実証実験に取り組んでいます。



産学公連携

スーパークラスタープログラム

平成 20 年度～24 年度に取り組んできた「京都環境ナノクラスター」において、開発・量産化を実現した省エネ効果の大きい次世代パワー半導体 SiC（シリコンカーバイド）の社会実装・普及を促進するため、「スーパークラスタープログラム」に企業、大学、行政（京都府・京都市）、支援機関の連携によるオール京都で取り組んでいます。



SiC パワーデバイス

自然の恵み

住宅用太陽光発電システムの設置助成

平成 24 年度の助成件数は 1,780 件（累計 5,657 件）と、太陽光発電システムの設置件数は年々増加しています。

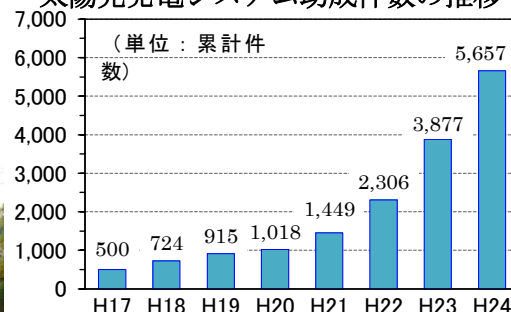
平成 24 年度から、蓄電システム、太陽熱利用システムの設置助成も開始しました。

< 目標 >

10,000 件（平成 32 年度）



太陽光発電システム助成件数の推移



京都市の施設では・・・

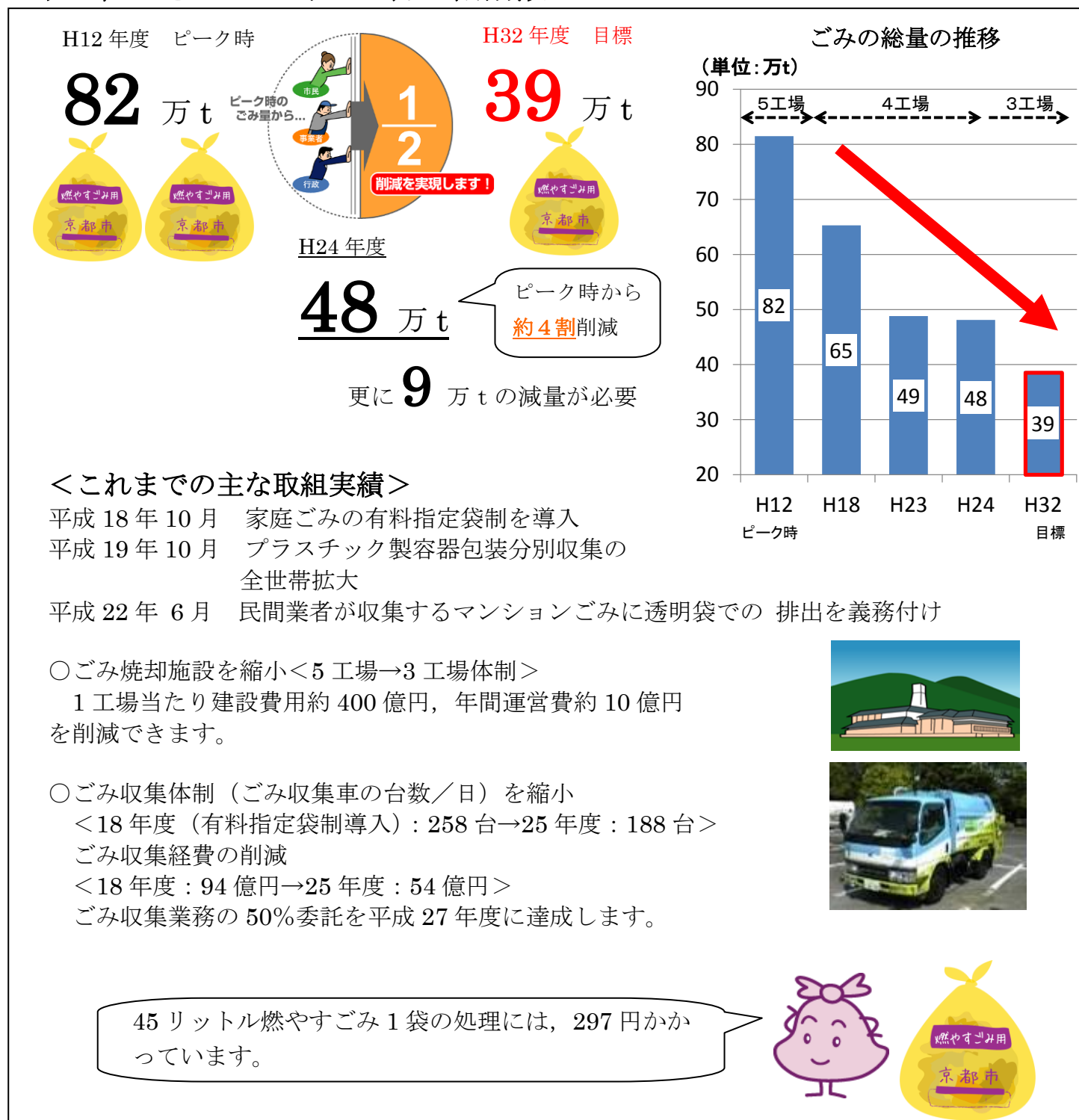
全ての公共施設に、太陽光発電・太陽熱設備をはじめとした「再生可能エネルギー」を最大限設置し、「省エネルギー」に寄与する LED 等の高効率光源や地域産木材などを最大限導入することとしています。

また、クリーンセンターでは、ごみ焼却の際に発生する熱により発電を行い、余剰電力は電力会社に売却し、運転経費の削減と熱エネルギーの有効活用を図っています。

ごみを出さない循環型社会の構築

ごみ量をピーク時から半分以上まで減らすという挑戦的な目標の達成に向けて、ごみを出さない 2R（リデュース：発生抑制，リユース：再使用）を重視した取組や，リサイクルを推進します。

ごみの総量をピーク時から約 4 割削減



京都市は

生活系ごみの排出量 449g/人・日（23 年度）は，政令市 20 市中で「最少」
定期収集，申込制収集，拠点回収の分別 24 品目は，政令市 20 市中で「最多」

ごみ半減目標達成のための基本方針1

そもそもごみを出さない

イベントのエコ化

「京都市エコイベント実施要綱」を平成 22 年 10 月に策定し、市認定のエコイベントに対して、リユース食器の導入費用の一部を助成しています。

また、「お試しキャラバン」として、リユース食器を会場に持ち込み実際に来場者や出店者に使ってもらうことで、その効果や魅力を PR しています。



リユース食器

家庭ごみの 7 割は紙ごみと生ごみです！

リサイクル可能な紙ごみや、食べ残し・手つかず食品、水キリされていない生ごみが、燃やすごみとしてたくさん出されています。

家庭ごみの約 4 割を占める「生ごみ」を減量

食材を使い切る「使い切り」、食べ残しをしない「食べきり」、排出前に水を切る「水きり」を推奨する「生ごみ 3 キリ運動」を推進しています。



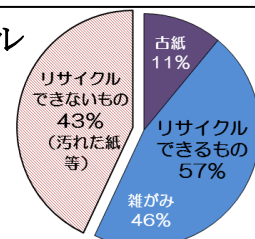
約 60 世帯、3 日分の燃やすごみに入っていた手つかず食品の例

ごみ半減目標達成のための基本方針2

ごみは資源、可能な限りリサイクル

家庭ごみの約 3 割を占める「紙ごみ」を徹底的に分別、リサイクル

平成 25 年度に包装紙等の雑がみを分別収集する社会実験を、11,000 世帯を対象に実施しました。平成 26 年度は、紙ごみの分別リサイクルの全市拡大に向けた取組を推進します。



平成 23 年度の紙ごみの内訳

有害・危険ごみ等の移動式拠点回収事業

てんぷら油、リユースびん、紙パックなどの「資源物」に、「出し方がわからない」などといった理由から捨てられないままになりがちな石油類や薬品などの「有害・危険ごみ」を加えた 23 品目のごみを対象として、公園や学校など日ごとに場所を変えて回収しています。



地域における総合的な環境行政の拠点窓口「エコまちステーション」

ごみ減量・リサイクル活動への支援、ごみの分別に関する相談などの拠点となる窓口を各区役所・支所内に開設しています。

こんな時は「エコまちステーション」に御相談ください。

- ・資源ごみの出し方、分別方法を知りたい。
- ・使用済てんぷら油回収、コミュニティ回収、生ごみ減量の助成制度を知りたい。
- ・蛍光管、電池、古紙等の資源物の回収拠点を知りたい。

まち美化事務所

台風 18 号（25 年 9 月）により発生した浸水ごみ等について、まち美化事務所が特別班を編成し、特別収集を行いました。



特別収集の様子

◆私たちにできること◆

はじめへん？太陽エネルギーのある暮らし

①助成金

事前に必要な手続きをすることで、助成金を受け取ることができます。

- ・太陽光発電システム
1kW あたり 2 万円



- ・蓄電システム
1kWh あたり 5 万円



- ・太陽熱システム
ソーラーシステム 1
件あたり 10 万円，太
陽熱温水器 1 件あた
り 5 万円



どんな支援がありますか？



②融資制度「エコリフォーム融資」

窓，外壁，屋根等の断熱改修，太陽光発電システムの設置など，自らが居住する住宅のエコリフォームをされる方は，融資を受けることができます。

融資限度額：350 万円， 融資利率：0.5%（平成 25 年 10 月 1 日現在）

家庭での節電アクション

○エアコンを使用する場合，冷房時は 28℃，暖房時は 20℃に。

（電気代 約－1,840 円／年）

○照明器具は，省エネ型の蛍光灯に替え，点灯時間を短く。

（電気代 約－1,950 円／年）

○冷蔵庫は詰め込まず，開閉を減らして。

（電気代 約－1,090 円／年）

○テレビを見ていないときは消す。（1 日 1 時間）

（電気代 約－370 円／年）



<京都市内の夏の節電（使用電力量）実績>

	7月～9月の使用電力量（千kWh）		
	25年度	22年度	削減率
家庭用	722,614	839,507	▲13.9%

（参考）関西電力管内における実績
削減率 ▲13.0%

環境施設見学会「ごみ減量エコバスツアー」に参加してみよう！

「ごみ減量エコバスツアー」は，ごみの処理・再資源化施設の見学を通じて，皆さんと一緒にごみの減量や分別・リサイクルについての理解を深め，環境にやさしいライフスタイルについて考えていただくツアーです。

<見学できる施設>

○京都市所管施設

クリーンセンター（市内 3 カ所）

資源リサイクルセンター（市内 2 カ所）

廃食用油燃料化施設 等

○民間の廃棄物処理施設等



紙ごみの分別リサイクルを進めましょう！

紙ごみとは・・・

新聞・チラシ， 雑誌・書籍， ダンボール， 紙パック， 雑がみ

紙ごみって，どこに出すの？

その 1 自治会やマンションのコミュニティ回収に出す。

その 2 民間の回収業者に依頼して出す。

その 3 上京リサイクルステーション，まち美化事務所，クリーンセンターに持ち込んで出す。

その 4 区役所・支所のエコまちステーションで月 1 回程度実施する臨時回収に出す。



◆各区の取組◆

各区役所においても、次のような環境にいい活動を行いました。



北区 北区民環境セミナー

区民の皆様が環境問題を考えるきっかけづくりとして、自然観察会を実施しました。珍しい植物の観察やどんぐりひろい集などを行いました。



上京区 区民ふれあいまつりでのエコ活動

ごみ減量（リユース食器の利用）、ごみの分別排出の啓発のほか、まちの美化、環境保全等に対する区民の意識高揚を図る取組を実施しました。



左京区 区民ふれあいまつりでのエコ活動

環境啓発コーナーで、ごみ分別のクイズやパネル展示、省エネ診断書の発行等を行い、3Rの取組をPRしました。



中京区 小学生を対象に特別授業を実施

区役所の屋上庭園で、ニホンミツバチを飼育し緑豊かなまちを目指しています。6月、11月には、巣箱見学会と緑の育て方教室を行いました。



東山区 区民ふれあいひろばでのエコ活動

模擬店でリユース食器を使用し、マイ箸・マイバッグの使用を働きかけ、分別ごみ箱の設置等により、ごみ減量・リサイクルの取組をPRしました。



山科区 エコアクション No.1 宣言 2013

環境啓発映画の上映、地産地消を推進する地元旬野菜の販売、不要になったおもちゃの交換等、子供たちも楽しみながらエコを学びました。



下京区 区民ふれ愛ひろばでのエコ活動

家庭のタンスに眠っている服の交換会を通じ、物を大切に使う生活様式への転換など、環境啓発を行いました。



南区 「打ち水」作戦

ヒートアイランド対策をはじめ環境にやさしい取組の推進を地域に呼びかけるため、「南区行政推進会議」の主催で「打ち水」を行いました。



右京区 右京ふれあい環境ひろば 2013

河川美化活動の充実、発展を目指し、京都水族館館長の講演や環境に関する展示等を行うとともに、区内全22学区がエコ学区に認定されました。



西京区 みどりのカーテン100枚プロジェクト

50世帯（平成24・25年で100世帯）の区民モニターの皆様が、家庭でみどりのカーテンの育成に取り組みました。



伏見区 環境月間による一斉清掃活動

環境月間の6月に、美しいまちを目指して、伏見桃山地域及び下鳥羽・城南宮地域で一斉清掃を実施しました。



京都市 環境政策局 環境企画部 環境総務課

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地 西庁舎2階

TEL:075-222-3450 FAX:075-222-3426

E-mail: kankyosomu@city.kyoto.jp